

(2026年2月11日 - ミシガン発 抄訳)

ボルグワーナー、初の48V電動クロスディファレンシャル受注を獲得

- *ボルグワーナー、中国市場において48V電動車両技術のラインアップを拡充*
- *グローバル製品ラインアップで初となる、48V電動クロスディファレンシャル(eXD)の受注を獲得*

革新的かつ持続可能なモビリティソリューションを提供するグローバルな製品リーダーであるボルグワーナー(NYSE:BWA/本社:アメリカ合衆国ミシガン州アーバンヒルズ、社長兼最高経営責任者:ジョセフ・ファドール/ Joseph Fadool)は、中国の大手自動車OEMから新たに電動クロスディファレンシャル(eXD)を受注しました。eXDは48Vシステム向けに設計されており、顧客の48V電気・電子(E/E)アーキテクチャに統合されます。今回は、ボルグワーナーのグローバル製品ラインアップにおける初の48V eXD採用事例であり、電気自動車向けトルクマネジメント技術のさらなる拡充につながるものです。

電気自動車市場が進化を続ける中で、車両のE/Eアーキテクチャは、より高効率かつ高度に統合された設計へと移行しています。48V電源アーキテクチャは、エネルギー効率の向上、配線や部品コストの最適化、さらには高出力アプリケーションへの対応といった利点を備えています。このアーキテクチャを活用したボルグワーナーのeXDは、車輪間のトルク配分を積極的に制御することで、車両のハンドリング性能とトラクションを向上させ、走行性能、安全性、およびシステム効率のバランスを確保するよう設計されています。

ボルグワーナーのeXDは、リアルタイムの走行状況や車両状態に応じて積極的にスリップ制御を行う設計となっており、高速走行時、急加速時、急旋回時においても車両のスタビリティを確保します。また、路面の摩擦条件が変化してもハンドリング性能の変化を最小限に抑えます。乾燥路面のような摩擦が大きい環境ではグリップが高いため、コーナリング性能を向上させるために外輪側へより多くのトルクを配分します。一方、氷雪路や泥濘路など摩擦が小さい環境では、ホイールスリップを瞬時に検知し、空転

する車輪へのトルク伝達を抑制するとともに、よりグリップの高い車輪へ駆動力を再配分することで、スタビリティと操縦性を確保します。

ボルグワーナー副社長兼ドライブトレイン／モールシステム事業本部長イザベル・マッケンジーは「ボルグワーナーのeXD技術は、さまざまな走行条件下においてハンドリング性能とスタビリティの向上に寄与すると考えています。今回、初めて48V eXDの受注を獲得することで、実績のあるトルクマネジメント技術を新たな電気アーキテクチャに適用できるボルグワーナーの技術力を示すことができました。48Vシステムの活用により、エネルギー利用効率やシステム効率、信頼性の向上が期待され、電気自動車ドライバーの走行体験をさらに快適なものにできるでしょう」と述べています。



**ボルグワーナー、中国の大手自動車 OEM から
初の 48V 電動クロスディファレンシャル(eXD) 受注を獲得**

ボルグワーナーについて

ボルグワーナーは、130 年以上にわたり、モビリティのイノベーションを成功に導く、変革的なグローバル製品リーダーであり続けています。すべての人にとってよりクリーンで健康的、かつ安全な未来を築くために、世界の e モビリティへの移行を加速させています。

URL: <https://www.borgwarner.com/home>

本リリースには、経営陣の現在の見通し、期待事項、試算、推定に基づく1995年米国私募証券訴訟改革法 (Private Securities Litigation Reform Act) で想定された、将来予測に関する記述が含まれている場合があります。「見込む」、「考える」、「継続する」、「可能性がある」、「目的とした」、「影響」、「試算する」、「評価する」、「期待する」、「予測する」、「目標」、「指針」、「取り組

み」、「意図する」、「場合がある」、「見通し」、「計画する」、「潜在的」、「予見する」、「推定する」、「追求する」、「目指す」、「すべきである」、「目標とする」、「の場合」、「でしょう」、「かもしれない」、およびこれらの語句の変化形や類似のものは、かかる将来予測に関する記述であることを意図しています。さらに、本リリースに含まれる、または参照する形で盛り込まれる、歴史的事実に関する記述を除く、当社の財務状況、事業戦略、および当該戦略を実施するための方策(事業の変更、競争力、目標、事業およびオペレーションの拡大・成長、計画、将来の成功への言及、その他の事項を含む)に関する、当社が将来発生すると期待または見込むすべての記述は、将来予測に関する記述です。最近提出されたフォーム 10-K(「Form 10-K」)年次報告書の第7項「重要な会計方針および試算(Critical Accounting Policies and Estimates)」に記載されているような会計上の試算は、性質上、将来予測に基づくものです。すべての将来予測に関する記述は、当社の経験、当社の歴史的動向に関する解釈、現在の状況、予想される将来の展開に関する認識、および現況において適切と考えられるその他の要因に照らして当社が行った仮定および分析に基づいています。将来予測に関する記述は業績を保証するものではなく、当社の実際の業績は、将来予測に関する記述において表現、推定または示唆されたものとは大きく異なる可能性があります。

本リリースの発行日現在における事柄を述べたものであるこれらの将来予測に関する記述を過度に信頼すべきではありません。将来予測に関する記述はリスクや不確実性を伴うものであり、その多くは予見困難であり、一般的に不可抗力によるものであるため、実際の結果は将来予測に関する記述で表明、予測、または示唆されているものとは大きく異なる可能性があります。これらのリスクおよび不確実性の代表的な例として、次のものがあげられます。当社または当社の顧客に影響を及ぼす供給の混乱、商品の入手可能性および価格設定、ならびにこれらのコストに関する顧客との交渉において期待されるレベルの回収率を達成できないこと；受託製造会社(OEM)の顧客を含む既存および新規の競合他社による競争上の課題；急速に変化する技術、特に電気自動車に関連する技術的課題、およびそれに対応する当社の技術革新能力；電気自動車に対する需要および電気自動車の売上成長を予測することの難しさ；戦争やその他の地政学的紛争によって引き起こされる世界経済の潜在的な混乱；適切な条件で買収対象を特定し、買収を完了する能力；買収によって期待される利益を適時に実現できない可能性；2023年に旧燃料系システム部門とアフターマーケット部門を非課税分社化して別個の株式公開企業としたことによる意図した利益が得られない可能性；取得事業を迅速かつ効率的に一体化できない可能性；取得事業に関する未確認または推測不能な債務の可能性；自動車およびトラック生産への依存性(いずれも景気に大きく左右され、混乱の影響を受けやすい)；大手OEM顧客への依存性；一部のOEM顧客における将来的なストライキの影響および当該OEM顧客の対処法；金利および外国為替レートの変動；情報システムへの依存性；世界的な経済環境の不確実性；様々な申し立てに関する訴訟を含む既存または将来の法的手続き、または関連する訴訟を含む政府による調査の行方；当社が事業を行っている国における税金や関税を含む法律や規制の将来的な変更；将来起こりうる買収または譲渡による影響；当社が証券取引委員会に提出する報告書(直近のForm 10-Kおよび/またはForm 10-Qの第1A項「リスク要因」)に記載されたその他リスク、など。当社は、期待事項の変更または記述の根拠となる事象、条件、状況、仮定の変更を反映するために、本発表文に含まれる将来予測に関する記述のいずれかを更新する、または更新・改訂内容を公表する義務を負いません。

<報道に関するお問い合わせ>

ボルグワーナー広報事務局 中込、浜辺

TEL: 090-7739-3601(中込)、080-2032-2924(浜辺)

EMAIL: borgwarner-pr@kyodo-pr.co.jp